

財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書第55集

庚 申 遺 跡  
(1076地点)

1999

千 葉 県 横 芝 町  
財団法人 山武郡市文化財センター

# 序文

庚申遺跡は、千代田の正倉院、丸の内動物園を中心  
に展開し、

## こ う し ん 庚 申 遺 跡

(1076地点)

水とに、民がより多くの利益がもたらされ、開港時代初期の町山形から江戸  
城周辺の遺跡が散見します。

江戸時代では、町山形の遺跡が散見されるなど、各地に遺跡が散見されて  
います。

江戸時代では、町山形の遺跡が散見されるなど、各地に遺跡が散見されて  
います。

江戸時代では、町山形の遺跡が散見されるなど、各地に遺跡が散見されて  
います。

江戸時代では、町山形の遺跡が散見されるなど、各地に遺跡が散見されて  
います。

江戸時代では、町山形の遺跡が散見されるなど、各地に遺跡が散見されて  
います。

江戸時代では、町山形の遺跡が散見されるなど、各地に遺跡が散見されて  
います。



調査協力：山武郡歴史文化センター

編集協力：小、野、宗

## 序 文

庚申遺跡（1076地点）の所在する横芝町は、千葉県北東部の九十九里浜平野の中心部に位置します。

この地域の地形は台地、海岸平野に区分され、台地は下総台地に属し樹枝状の侵食谷が見られます。

台地上には、古来より先人の足跡が数多く見られ、縄文時代晩期の姥山貝塚など千葉県屈指の遺跡が所在します。

海岸平野では、縄文時代の独木舟が数基検出されるなど、砂堤上の遺跡も数多く見られます。

横芝町では、福祉事業の一環として保健福祉センター建設が計画され、平成9年11月に確認調査を実施し、古墳時代後期から奈良・平安時代の集落跡であることが確認され、本調査を平成10年2月に実施しました。

調査の結果、建物跡・方形区画溝・溝など多くの遺構・遺物が検出されました。

このほど庚申遺跡（1076地点）の発掘調査の成果がまとめられ、報告書として刊行される運びとなりました。

本報告書が、今後の地域史研究に寄与することを期待するとともに、この調査・整理に終始、ご指導・ご尽力を賜った関係機関ならびに関係各位に心からお礼申し上げます。

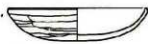
平成11年3月

財団法人 山武都市文化財センター  
理事長 小 倉 幸

## 例 言

1. 本書に所収される内容は、千葉県山武郡横芝町栗山字龜作1076番地他に所在する庚申遺跡（1076地点）の調査報告書である。
2. 調査期間  
確認調査 平成9年11月18日～11月19日 4,476㎡の10% 担当 木川浩司  
本調査 平成10年2月9日～3月3日 820㎡ 担当 山口直人
3. 整理期間  
平成10年11月1日～12月28日 担当 山口直人
4. 確認調査は調査課長渡辺修一・調査課長補佐石本俊則の指導のもと調査研究員木川浩司が行い、本調査は調査課長渡辺修一・調査課長補佐石本俊則の指導のもと副主査山口直人を行った。
5. 整理事業は調査課長大野康男・調査係長渡辺修司の指導のもと山口が行った。
6. 本書執筆は山口が、縄文土器は吉田が行い、大野・渡辺が加筆・補正した。
7. 本書の第1図に使用した地形図は国土地理院発行の「1:25,000」の成東・木戸を使用。
8. 調査・整理において下記の諸機関よりご指導・ご協力を頂いた。  
千葉県教育庁生涯学習部文化課・横芝町教育委員会・横芝町福祉課
9. 図中の表記は下記のとおり。

● 土器・縄文土器 ▲ 石製品 △ 鉄製品



土器



石製品



鉄製品

凡 例 図

# 目 次

序文

例言

## 第I章 序章

第1節 調査に至る経緯

第2節 遺跡の位置と地理的環境

第3節 調査方法

## 第II章 検出された遺構と遺物

第1節 建物跡

第2節 方形区画溝

第3節 土坑

第4節 溝

第5節 グリッド出土遺物

## 第III章 まとめ

# 挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

第2図 遺構配置図

第3図 B-1遺構及び遺物実測図

第4図 B-2・3遺構、B-3遺物実測図

第5図 X-1・2遺構実測図

第6図 D-1遺構及び遺物実測図

第7図 M-1遺構実測図

第8図 M-2・3遺構、M-2遺物実測図

第9図 M-4遺構実測図

第10図 M-5・6遺構、M-5遺物実測図

第11図 M-7～11遺構、M-8・11遺物実測図

第12図 M-12～18遺構実測図

第13図 M-19・20遺構、M-19遺物実測図

第14図 グリッド出土遺物

# 表 目 次

第1表 遺跡表

第2表 B-3土器観察表

第3表 D-1土器観察表

第4表 M-2土器観察表

第5表 M-5土器観察表

第6表 M-8 土器觀察表

第7表 M-11 土器觀察表

第8表 M-19 土器觀察表

## 写真目次

### 図版 1

1. 全景
2. B-1 遺物出土状態
3. B-3 遺物出土状態

### 図版 3

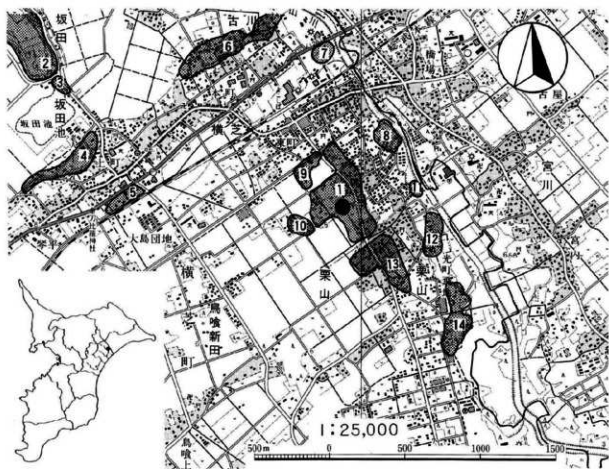
1. M-19・20 完掘
2. C 区南側
3. C 区北側

### 図版 2

1. X-1 完掘
2. X-2 完掘
3. M-18・19 遺物出土状態

### 図版 4

出土遺物写真



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

第1表 遺跡表

番号	遺跡名	住所	時代
1	庚申遺跡	栗山字庚申2563-1	古墳後期・奈良・平安
2	坂田城跡	坂田字於東655-1	中近世
3	坂田池遺跡	坂田字溜池1-10	縄文 独木舟
4	真砂遺跡	横芝字真砂4802	古墳（前・中・後）奈良・平安
5	鶴岡遺跡	横芝字鶴岡562-1	平安
6	竜ヶ塚遺跡	古川字竜ヶ塚240-4	古墳（前・中・後）奈良・平安
7	横芝川遺跡	横芝字川田1080	縄文 独木舟
8	赤岩遺跡	栗山字赤岩2831-2	平安
9	伊古田遺跡	栗山字伊古田1087-1	奈良・平安
10	柳立遺跡	栗山字柳立1698-3	平安
11	宮後遺跡	栗山字宮後3228-4	平安
12	馬場川遺跡	栗山字馬場川3286-2	平安
13	沢田遺跡	栗山字沢田1612-1	平安
14	平和遺跡	栗山字平和4327-1	古墳（前・中・後）奈良・平安

# 第I章 序章

## 第1節 調査に至る経緯

照会

横芝町福祉課では横芝町栗山字龍作1076番地他に保健福祉センター建設の計画が持ち上がり、平成9年7月1日に福祉課から横芝町教育委員会に事業地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会が提出された。

そこで、千葉県教育庁生涯学習部文化課では、現地踏査を実施したところ、周知の遺跡である庚申遺跡の範囲にあり、その旨を平成9年8月7日に回答した。この回答をもとに遺跡の取扱いについて県文化課、町教育委員会、福祉課の三者間で協議が重ねられた結果、遺跡の性格を把握するために確認調査を実施することとなった。

確認調査

確認調査は4,476㎡の10%で平成9年11月18日から11月19日まで行い、確認の結果、竪穴住居跡4軒、掘立柱建物跡2棟、溝60条、土坑4基を検出した。

記録保存

この結果を受け三者で協議を重ねた結果、記録保存の処置を講ずることとなった。

本調査

本調査は建物建築部分の820㎡で平成10年2月9日から3月3日まで実施した。

(横芝町教育委員会)

## 第2節 遺跡の位置と地理的環境

庚申遺跡(1076地点)は九十九里平野の第II砂堤上の標高6m前後に占地している。

横芝駅に近接していることから、周辺には商店街をはじめ宅地や学校があり、人々の生活の中心地である。

庚申遺跡の周辺には縄文時代(後期)から奈良・平安時代にかけての遺跡が数多く分布している(第1図参照)。古来から生活の中心域であることが伺える。

## 第3節 調査方法

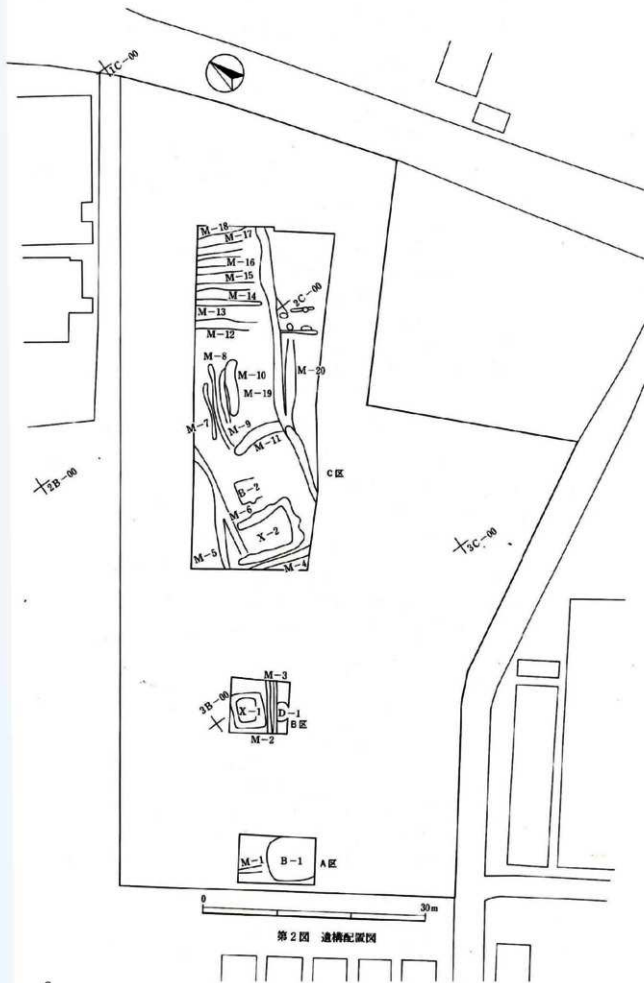
グリッド

調査に先立ち、調査区の設定を行い、設定後バックホウで遺構の確認面である、砂層まで表土を除去し、人力により精査し遺構を検出した。

基準点測量の杭を打ち、グリッドを設定した。グリッドは大グリッドを40m毎に、東西A・B・C・・・、南北を1・2・3・・・、と番号を付し、小グリッドは大グリッド内を4m毎に、東西01・02・03・・・、南北10・20・30・・・、と番号を付した。

遺構の調査は精査した後、プランを確認し、土層確認用のベルトを設定して発掘を行った。遺構の作図及び写真は適時行った。





第2図 遺構配置図

## 第II章 検出された遺構と遺物

本調査区は6m前後の第II砂堤列上に立地している。検出された遺構は、建物跡3棟・方形区画溝2基・土坑1基・溝20条である。

検出された遺物は彌文時代後期から奈良・平安時代に至る、小片ではあるが古墳時代後期の遺物が最も多く検出された。

本砂堤上を長期間集落として利用していたことが伺える。

### 第1節 建物跡

建物跡は3棟検出され、住居跡か不明であるが何らかの施設と考えられる。成東町小泉遺跡（渡辺 1996年）にも同様な掘込みが見られる。

B-1 (第3図・図版1・4)

位置 3B-50G

規模 570×? cm

残存高 9~15cm

柱穴

P1 28×34-24cm

P2 44×50-14cm

P3 40×40-20cm



3-1 砥石

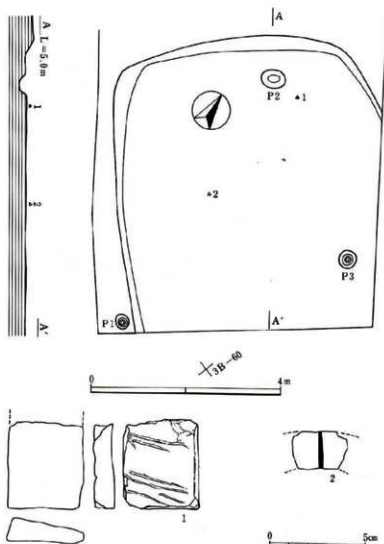
幅41mm 長 不明

厚12mm 重量32.8g

3-2 手鎌

幅19mm 長 不明

厚2mm 重量2.3g



第3図 B-1遺構及び遺物実測図

第1節 建物跡

B-2 (第4図)

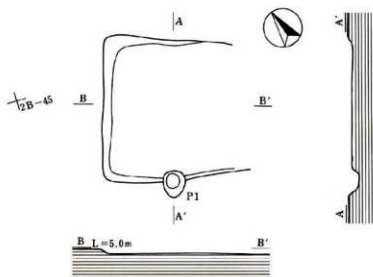
位置 2C-45G

規模  $?$   $\times$  310cm

残存高 2~11cm

柱穴

P1 58 $\times$ 50-21cm



B-3 (第4図・図版1・4)

位置 2C-00G

規模 不明

周溝 幅28~38cm

深5~10cm

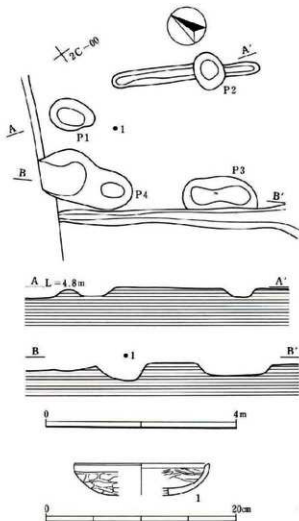
柱穴

P1 91 $\times$ 74-10cm

P2 80 $\times$ 60-26cm

P3 151 $\times$ 80-20cm

P4 198 $\times$ 86-10cm



第4図 B-2・3遺構、B-3遺物実測図

第2表 B-1土器調査表

単位cm ( )推定

探出番号	器種	遺存度	口径	器高	底径	最大径	胎土	色調(内/外)	備考
4-01	杯	1/4	(14.4)	-	-	-	赤・スクリヤ	内面茶褐色・外黄色茶褐色	

第2節 方形区画溝

方形区画溝は2基検出された。X-1は北側が広く、逆台形状を呈する。X-2は西側の溝が検出されなかった。

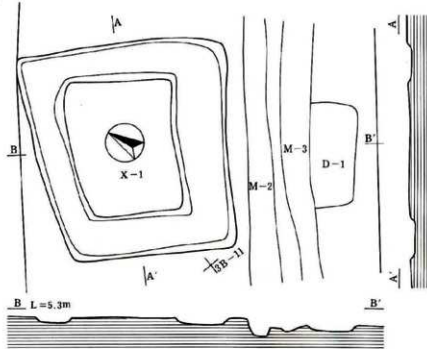
X-1 (第5図・図版2)

位置 3B-01G

規模 416×460cm

溝 幅78×120cm

深10~15cm



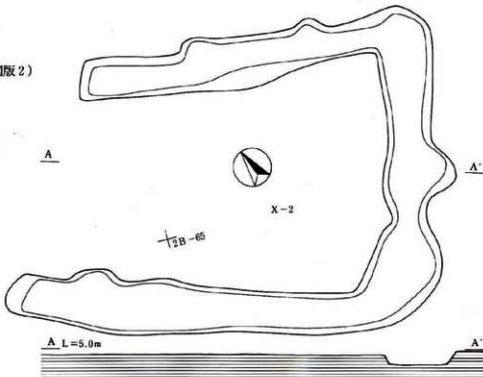
X-2 (第5図・図版2)

位置 2B-55G

規模 ?×630cm

溝 幅90×110cm

深20~40cm



第5図 X-1・2遺構実測図

### 第3節 土坑

#### 第3節 土坑

土坑は1基検出された。形態は長方形、断面形は逆ハ字形を呈す。

#### D-1 (第6図・図版4)

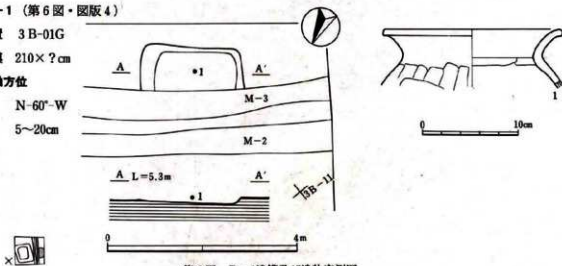
位置 3B-01G

規模 210×?cm

長軸方位

N-60°-W

深 5~20cm



第6図 D-1遺構及び遺物実測図

第4表 D-1土器調査表

単位cm ( )推定

検出番号	器種	遺存度	口径	器高	底径	最大径	胎土	色調(内/外)	備考
6-01	甕	口縁~胴部1/6	(18.8)	-	-	-	密・スコリア	内外面茶褐色	

### 第4節 溝

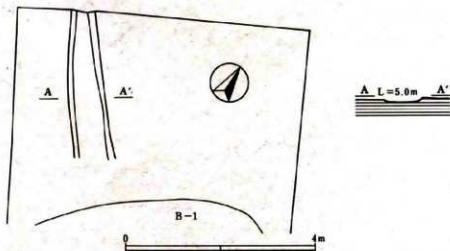
溝は20条検出された。本遺跡の主要遺構である。溝の検出量が多いのが低地遺跡の特長であるが、用途ははっきりしないが、治水用の配水施設の可能性がある。

#### M-1 (第7図)

位置 3A-47G

幅 50~80cm

深 1~6cm

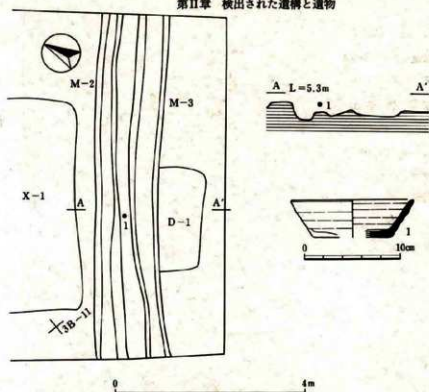


第7図 M-1遺構実測図

第二章 検出された遺構と遺物

M-2 (第8図)  
位置 3B-01・02G  
幅 48~60cm  
深 20~24cm

M-3 (第8図)  
位置 3B-01・02G  
幅 40~68cm  
深 2~10cm



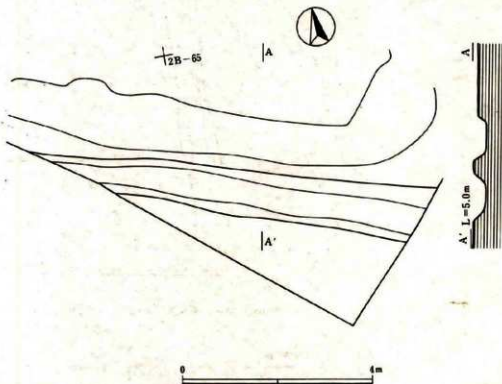
第8図 M-2・3遺構、M-2遺物実測図

第4表 M-2土器破片表

単位cm ( )推定

採出層号	器種	遺存数	口径	器高	底径	最大径	胎土	色調(内/外)	備考
B-01	环	1/6	(13.0)	(4.0)	(8.0)	-	黒・砂粒	内外黒灰色	

M-4 (第9図)  
位置 2B-64・65G  
幅 80~100cm  
深 20~25cm



第9図 M-4遺構実測図

第4節 溝

M-5 (第10図)

位置 2B-43・53G

幅 60~110cm

深 15~25cm

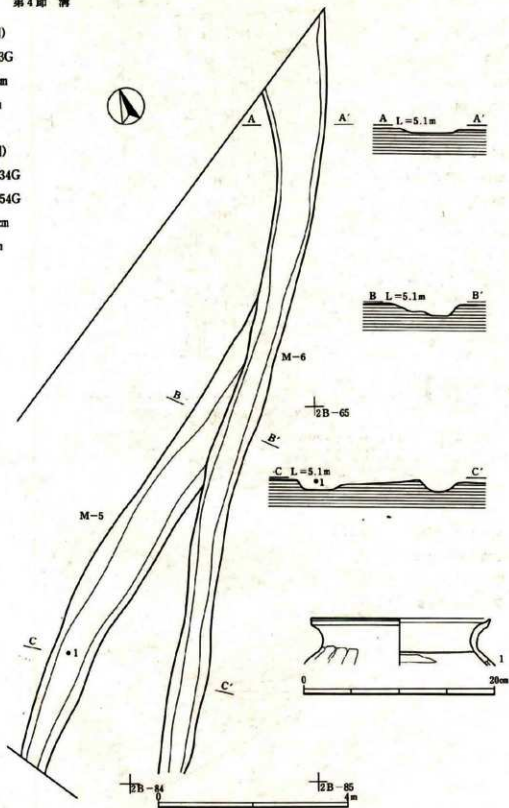
M-6 (第10図)

位置 2B-24・34G

44・54G

幅 58~120cm

深 15~25cm



第10図 M-5・6遺溝、M-5遺物実測図

第5表 M-5土器調査表

単位cm ( )推定

発掘番号	器種	遺存度	口径	口径	底径	最大径	胎土	色調(内/外)	備考
10-01	甕	口縁1/4	(19.0)	-	-	-	赤・スゴリア	内外淡茶褐色	

M-7 (第11図)

位置 2 B-06・15G

25G

幅 40~55cm

深 5~10cm

M-8 (第11図・図版4)

位置 2 B-06・16G

26G

幅 60~70cm

深 17~24cm

M-9 (第11図)

位置 2 B-07・16G

幅 52~70cm

深 5~10cm

M-10 (第11図)

位置 2 B-07・16G

幅 120~150cm

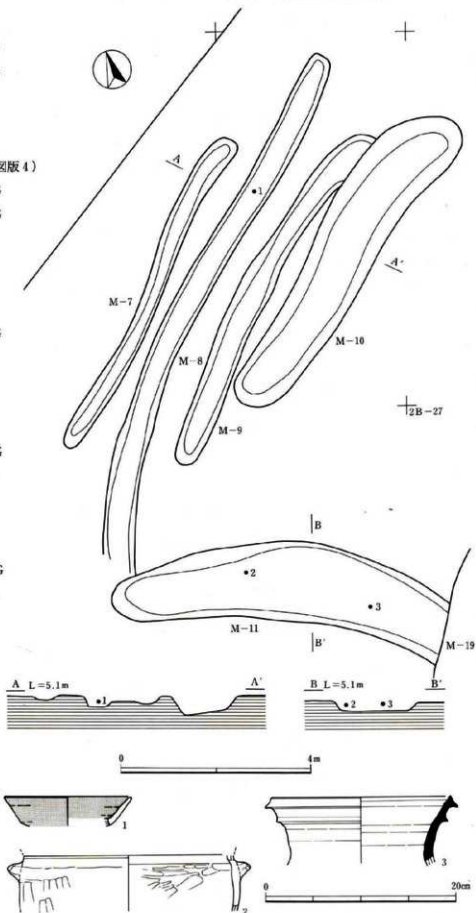
深 28~40cm

M-11 (第11図)

位置 2 B-26・27G

幅 120~175cm

深 20~30cm



第11図 M-7~11遺構、M-8・11遺物実測図



第4節 溝



第6表 M-8土器観察表

単位cm ( )推定

探検番号	器種	遺存度	口径	器高	底径	最大径	胎土	色調(内/外)	備考
11-01	坏	1/6	(13.4)	3.0	-	-	密・スコリア	内外面赤褐色	内外赤彩

第7表 M-11土器観察表

単位cm ( )推定

探検番号	器種	遺存度	口径	器高	底径	最大径	胎土	色調(内/外)	備考
11-02	甕	割部1/7	-	-	-	(23.6)	密・スコリア	内外面赤褐色	
11-03	甕	口縁1/6	(19.6)	-	-	-	密・砂粒	内外面灰色	

M-12 (第12図)  
位置 1 B-87-98G  
幅 90~130cm  
深 23~38cm

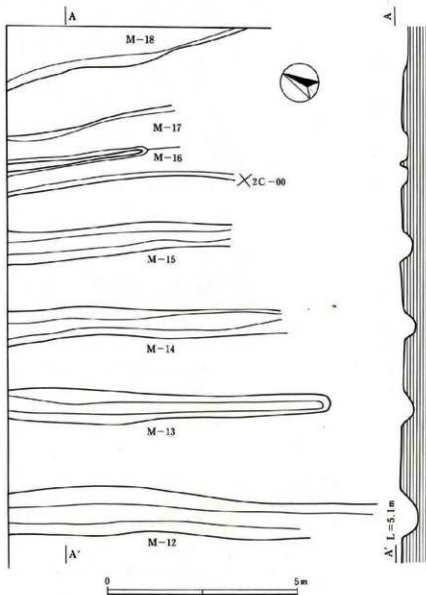
M-13 (第12図)  
位置 1 B-88-99G  
幅 50~98cm  
深 10~24cm

M-14 (第12図)  
位置 1 B-78-88G  
幅 70~98cm  
深 10~35cm

M-15 (第12図)  
位置 1 B-78-79G  
幅 60~92cm  
深 15~25cm

M-16 (第12図)  
位置 1 B-79-99G  
幅 60~70cm  
深 18~20cm

M-17 (第12図)  
位置 1 B-79-99G  
幅 70~105cm  
深 20~23cm



第12図 M-12~18遺構実測図

M-18 (第12図) 幅 不明  
位置 1 B-99-2C-70G 深 11~13cm

M-19 (第13図・図版4)

位置 1 C-70・80G

2 B-09・18G

幅 94~164cm

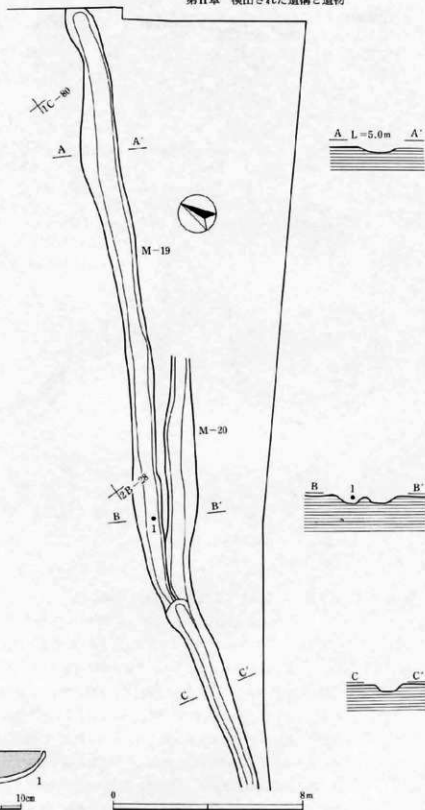
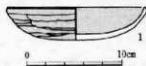
深 20~40cm

M-20 (第13図)

位置 2 B-19・28G

幅 84~140cm

深 20~40cm



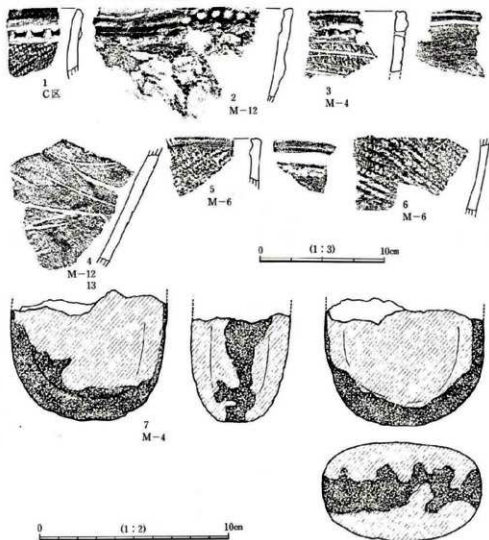
第13図 M-19・20遺構、M-19遺物実測図

第8表 M-18土器数量表

単位cm ( )推定

検出番号	器種	遺存数	口径	器高	底径	最大径	胎土	色調(内/外)	備考
13-01	坏	2/3	14.4	3.4	-	-	密・スコリア	内外面淡粉褐色	内外赤彩

第5節 グリッド出土遺物



第14図 グリッド出土遺物

第5節 グリッド出土遺物 (第14図・図版4)

グリッドから縄文時代の土器片25片(8個体分)と石器1点が検出された。土器片はすべて後期縄文内式～加曾利B式の粗製土器である。うち6個体分と石器1点を図示した。

1～4は、紐線文系土器である。1は、断面外削ぎ状の口縁部で若干外反する。縄文を地紋とし口縁の少し下に両側を沈線が巡る紐線が施され、紐線上に指頭による圧痕がなされる。2は、断面角頭状の口縁部で、小突起を有する。小突起は口唇部の一部に紐線を貼り付けた後、指頭による圧痕が施されて形成される。内面に1条の沈線が巡る。外面は剥落が著しく不明な点が多いが、口縁の少し下に紐線文が施されていたと思われる。3は、断面角頭状の口縁部で、口唇部に1条の沈線、内面に1条の太沈線が巡る。縄文を地紋とし口縁の少し下に紐線が施され、紐線上に指頭による圧痕がなされる。4は、沈線による斜線文が施された割部片である。5・6は縄文施文の土器で、5は断面角頭状の口縁部片で内面に1条の太沈線が巡る。型之内2式～加曾利B式に比定される1以外は、すべて加曾利B式に比定される。残りの2個体は紐線文系土器である。

7は、流紋岩製磨石で、1/2が遺存する。表表面に擦痕、側面に弱い敲打痕が認められる。長さ8.4cm、幅6.2cm、厚さ5.2cm、重さ396.2gを測る。

## 第三章 まとめ

- 庚申遺跡(1076地点)は、海岸平野の微高地約6m前後の第II砂堤列上に立地している。第II砂堤列上の調査は平成7年10月に成東町の小泉遺跡が実施され、竪穴状遺構や多数の溝、奈良・平安時代の土師器・須恵器が検出されている。また、平成10年5月に第二次の調査が実施されている。(平成11年3月刊行)
- 第II砂堤列** 庚申遺跡も小泉遺跡同様に竪穴状遺構(本報告書では建物跡とした)や溝が検出された。以下、気付いたことを記してまとめとしたい。
- 小泉遺跡** 第II砂堤列上の調査では八日市場市の平木遺跡が知られている。平木遺跡では台地上と同形態の竪穴住居跡及び掘立柱建物跡が検出されている。特に掘立柱建物跡は多く、墨書土器の「郡厨」・「廩」(序)などから何らかの公的施設の可能性を秘めている遺跡である。庚申遺跡では平木遺跡のようなはっきりとした竪穴住居跡や掘立柱建物跡は検出できなかったが、B-1・2・3のような何らかの施設を想定できる遺構が検出された。
- 平木遺跡** 方形区画溝は2基検出されたが、平木・小泉遺跡などには見られず、庚申遺跡が初例であるが、区画した内側にはなんら施設を見いだすことはできず、今後の調査例の蓄積によって解明されると考えられる。
- 溝は20条検出された。平木・小泉遺跡においても多数検出している。低地遺跡の特徴と考えられる。溝は大まかに東西10条・南北10条に区別されるが、区画・排水等の用途は考えられるが集落においてどのような意味を成すのかは不明である。
- 加曾利B式** 遺物は縄文時代後期の堀之内式～加曾利B式が散見され、当該期から人々の足跡が確認できる。集落形成は7世紀中葉から9世紀にかけて営まれたと考えられる。遺物も当該期が最も多く検出された。遺構の年代も当該期と考えられる。
- 庚申遺跡では縄文時代後期から生活が営まれ、7世紀中葉から集落を形成していた事が指摘できよう。

### 参考文献

1. 清水潤三 1954 「九十九里沿岸に於ける低地遺跡の研究(予報)」【史学】第27巻第4号
2. 西山太郎 1978 「九十九里地域の縄文について」【奈良】14・15
3. 森脇広 1979 「九十九里平野の地域発達史」【第四紀研究】18-1
4. 小久買隆史1988 「八日市場市平木遺跡」財団法人千葉県文化財センター
5. 渡辺修司 1996 「小泉遺跡(御用地3257地点)」財団法人山武郡市文化財センター

写 真 图 版

1. 全 景



2. B-1遺物出土狀態



3. B-3遺物出土狀態



1. X-1 完掘



2. X-2 完掘



3. M-18·19 遺物出土狀態





1. M—19·20完掘



2. C区南侧



3. C区北侧





1. B-1 1



4. M-8 1



2. B-3 1



5. M-19 1



3. D-1 1



6. グリッド出土遺物 7



1



2



4



3



5



6

7. グリッド出土遺物

# 報告書抄録

ふりがな	こうしんいせき (1076ちてん)
書名	庚申遺跡 (1076地点)
副書名	
巻次	
シリーズ名	財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第55集
編著者名	山口 直人・吉田 直哉
編集機関	財団法人 山武郡市文化財センター
所在地	〒299-3242 千葉県山武郡大網白里町金谷郷1356-2 TEL0475-72-3211
発行年月日	西暦 1999年3月19日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
庚申遺跡 (1076地点)	千葉県山武郡横芝町 栗山字蘆作1076番地 他	12408	山文セ-132	35度 39分 05秒	140度 29分 50秒	19980209 ～ 19980303	820	保健福祉 センター 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
庚申遺跡 1076地点	包含地	縄文時代		縄文土器(後期) 磨石	
	集落跡	古墳時代後期 ～奈良・平安時代	建物跡・方形区画 溝・土坑・溝	土師器・須恵器 砥石・鉄製品	第II砂堤列上に古墳時代後期～奈良・平安時代の集落を檢出。

千葉県山武郡横芝町

庚申遺跡 (1076地点)

---

印刷 平成11年3月19日  
発行 平成11年3月19日  
発行 横芝町  
千葉県山武郡横芝町横芝636  
編集 財団法人 山武都市文化財センター  
千葉県山武郡大網白里町金谷郷1356-2  
TEL 0475-72-3211  
印刷 株式会社 弘報社印刷  
製本 千葉県千葉市緑区古市場町474-268  
TEL 043 (268) 2371

---

SCRC ARCHAEOLOGICAL PAPERS NO.55

---

**KOUSIN**  
**LOC.1076**

1999

CHIBA PREFECTURE YOKOSIBA TOWN OFFICE  
SANBU CULTURAL PROPERTIES RESEARCH CENTER